

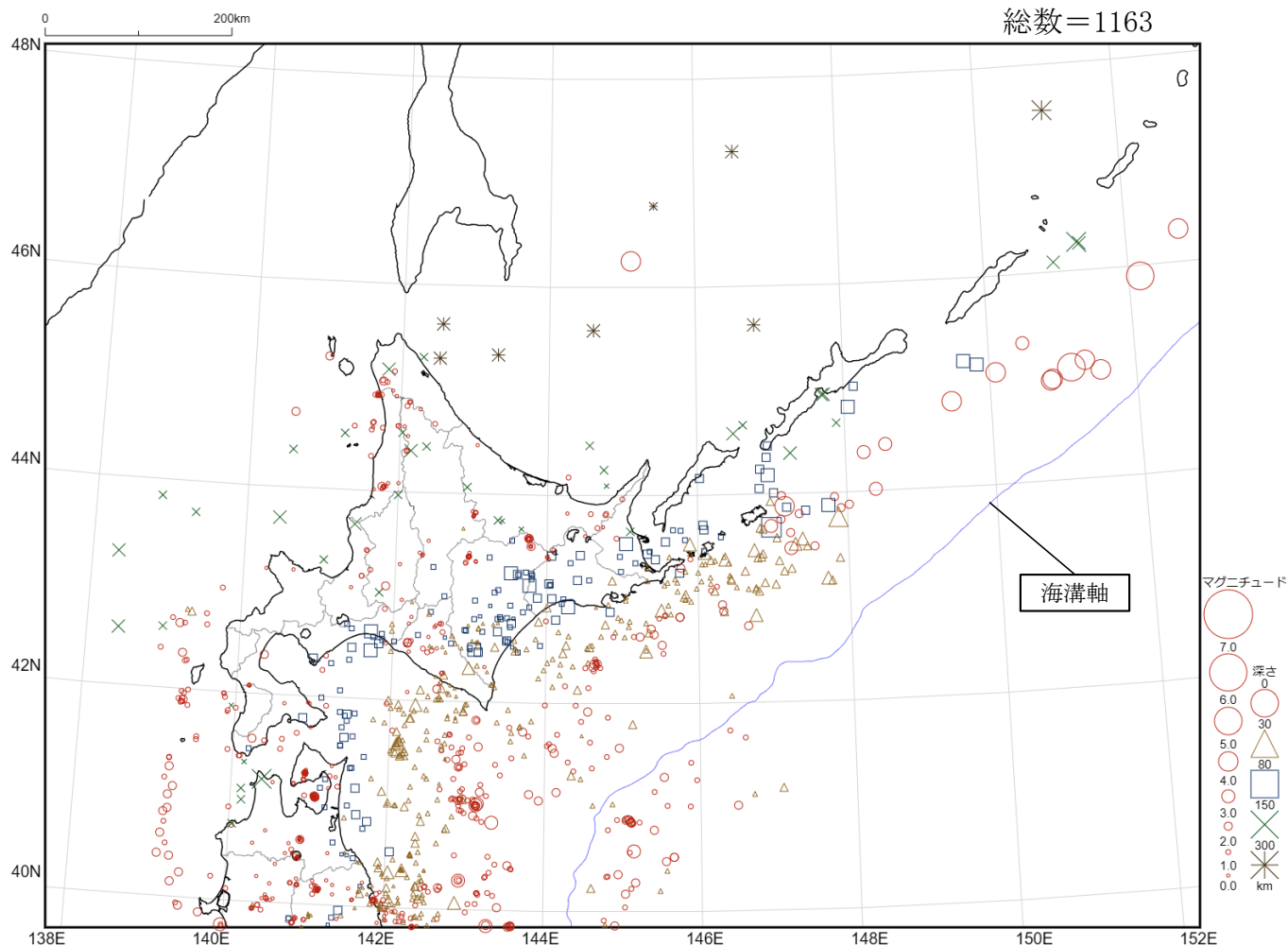
北海道の地震活動図

2025年1月

札幌管区気象台

震央分布図

総数=1163



地震概況（2025年1月）

この期間、北海道内の震度観測点で震度1以上を観測した地震は10回（12月は14回）でした（「震度1以上を観測した地震の表」参照）。

震度3以上を観測した地震はありませんでした。

この活動図は、札幌管区気象台のホームページに掲載しています。

https://www.data.jma.go.jp/sapporo/jishin/earthquake_report.html

この資料に関する問い合わせ先 札幌管区気象台 地震火山課 TEL 011-611-6125

北海道で震度 1 以上を観測した地震の表 (2025年1月)

	年 月 日 地方	時 分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯 (N)	東経 (E)	深さ (k m)	規模 (M)
1	2025年 1月 1日 根室地方	09時37分 震度 2 震度 1	根室半島南東沖 根室市瑤瑤瑠* (15) 根室市牧の内* (06)	43° 26.8′ N	146° 05.2′ E	66 k m	M3.8
2	2025年 1月 1日 留萌地方	12時56分 震度 2	留萌地方南部 小平町達布* (19)	44° 02.7′ N	141° 46.8′ E	8 k m	M2.7
3	2025年 1月 7日 渡島地方 胆振地方	11時47分 震度 1 震度 1	青森県津軽北部 函館市泊町* (06) 安平町追分柏が丘* (05)	41° 10.9′ N	140° 23.4′ E	161 k m	M4.5
4	2025年 1月 7日 宗谷地方	23時07分 震度 1	北海道北西沖 礼文町香深* (05)	45° 16.6′ N	140° 59.9′ E	16 k m	M2.6
5	2025年 1月15日 渡島地方	09時52分 震度 1	渡島地方西部 福島町福島* (06)	41° 34.1′ N	140° 14.2′ E	7 k m	M2.3
6	2025年 1月15日 十勝地方 釧路地方	18時24分 震度 1 震度 1	釧路地方中南部 足寄町上螺湾 (07) 十勝池田町西 1 条* (07) 豊頃町茂岩本町* (11) 本別町北 2 丁目 (14) 本別町向陽町* (12) 釧路市阿寒町中央* (09) 釧路市音別町中園* (09) 標茶町塘路* (05) 白糠町西 1 条* (14)	43° 07.7′ N	143° 46.3′ E	108 k m	M3.9
7	2025年 1月16日 渡島地方 石狩地方 胆振地方 日高地方	07時38分 震度 2 震度 1 震度 1 震度 1 震度 1	青森県東方沖 函館市泊町* (21) 函館市美原 (05) 函館市大森町* (06) 函館市新浜町* (12) 函館市川汲町* (06) 函館市日ノ浜町* (07) 鹿部町宮浜* (05) 福島町福島* (05) 千歳市北栄 (08) 新千歳空港 (08) 千歳市若草* (11) 千歳市支笏湖温泉* (06) 胆振伊達市梅本 (06) 胆振伊達市大滝区本町* (06) 壮瞥町滝之町* (07) 苫小牧市末広町 (05) 登別市釧山 (07) 登別市桜木町* (06) 白老町竹浦 (11) 厚真町鹿沼 (07) 安平町追分柏が丘* (05) むかわ町松風* (10) むかわ町穂別* (05) 日高地方日高町門別* (06) 新ひだか町静内山手町 (07) 新ひだか町三石旭町* (07) 浦河町潮見 (10) 浦河町築地* (07) 様似町栄町* (11) えりも町えりも岬* (14)	41° 33.8′ N	142° 07.2′ E	53 k m	M4.8
8	2025年 1月21日 日高地方	22時01分 震度 1	日高地方西部 日高地方日高町門別* (12)	42° 32.9′ N	142° 11.5′ E	0 k m	M2.7
9	2025年 1月22日 日高地方	13時37分 震度 1	日高地方東部 浦河町潮見 (07)	42° 19.6′ N	142° 59.7′ E	53 k m	M3.4
10	2025年 1月23日 釧路地方	14時37分 震度 1	釧路沖 厚岸町尾幌 (08) 浜中町茶内* (09)	42° 30.2′ N	145° 18.4′ E	33 k m	M3.9

＊のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。
() 内の数値は0.1単位の詳細な震度 (計測震度) の小数点を省略して表しています。

計測震度と震度階級の関係

計測震度	～0.4	0.5～1.4	1.5～2.4	2.5～3.4	3.5～4.4	4.5～4.9	5.0～5.4	5.5～5.9	6.0～6.4	6.5～
震度階級	0	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7

本資料の利用にあたって

- 本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
- 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。
- 図中橙色の線は、地震調査研究推進本部が地震発生可能性の長期的な確率評価を行った主要活断層を表します。
- 過去の地震と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。
- 本資料中の地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号平29情使、第798号）。

【防災メモ】

～異常震域～

一般に、地震の揺れは震源に近い場所ほど強く、遠い場所ほど弱くなります。しかし、震源が非常に深い地震（深発地震）の場合、震源の真上ではほとんど揺れないのに、震源から離れた場所で揺れを観測することがあります。この現象を「異常震域」と呼びます。

日本周辺では、陸のプレートの下に海洋プレートが沈み込んでいます。この海洋プレートと陸のプレートの間には地震波が減衰しやすい領域があるため、沈み込んだ海洋プレートのかかなり深い場所で地震が発生すると、地震波が減衰しにくい海洋プレートを通して地震波が伝わる太平洋側で震度が大きくなることがあります（図1、図2）。

特徴的な震度分布のため「異常震域」と呼ばれますが、発生した地震自体が異常というわけではありません。なお、異常震域を生じるような深発地震でも、地震の規模が大きくなれば強い揺れによる被害を生じることがあります。

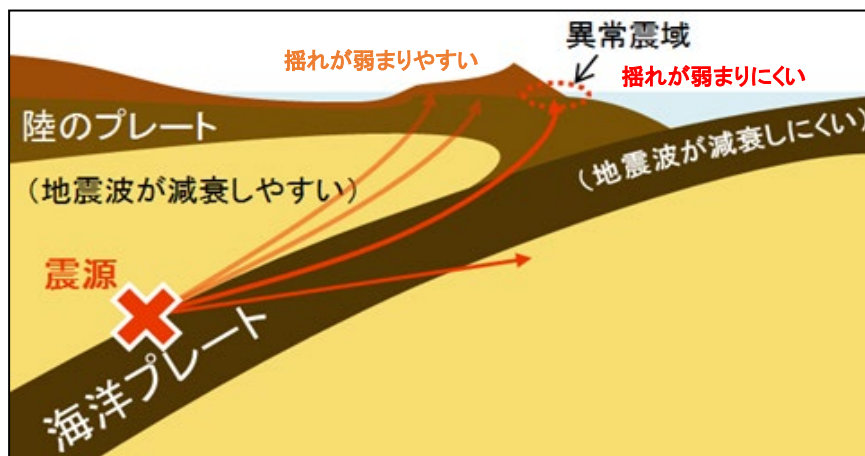
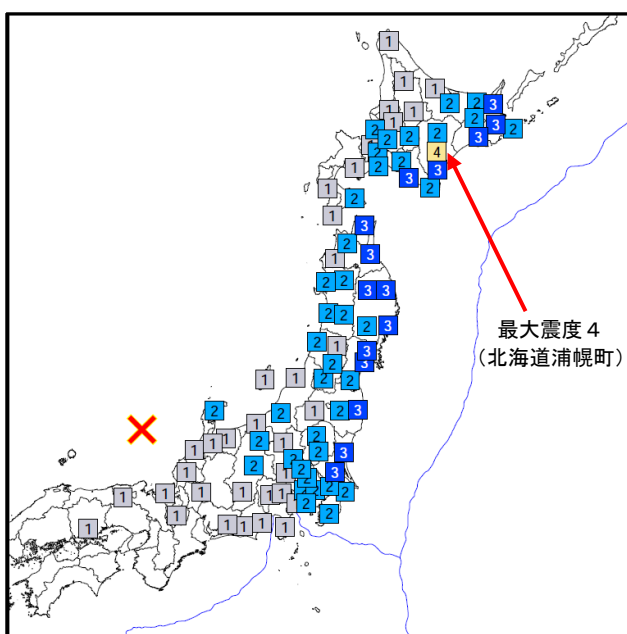
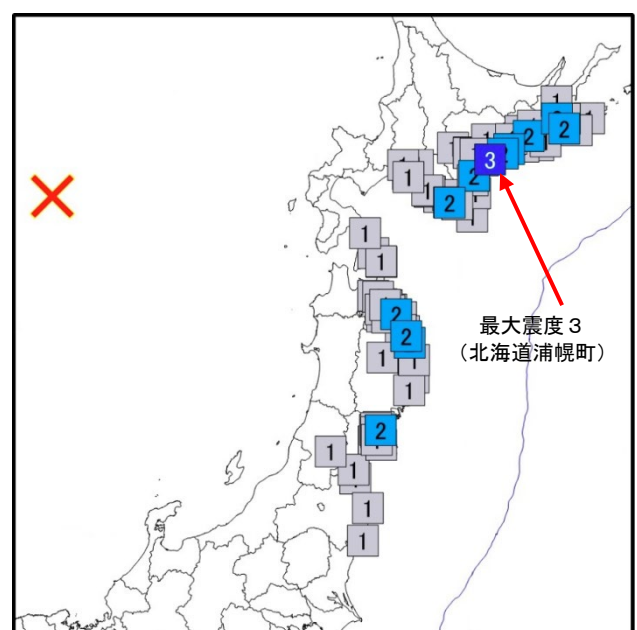


図1 異常震域模式図（断面図）



京都府沖の地震の震度分布図

(2007年7月16日 M 6.7 深さ374km)



日本海北部の地震の震度分布図

(2023年6月28日 M 6.3 深さ518km)

図2 異常震域の事例（×印は震央、数字は震度を示す）